

2024年度(令和6年度)

自己評価報告書

**学校法人東北外語学園
日本国際学園大学東北外語ビジネス専門学校**

■2024年度（令和6年度） 自己評価について

本校では、学生等が関係業界等のニーズを踏まえたより質の高い職業教育を継続的に享受していけるように、学校運営の改善を目指し学校自己評価を行いました。評価にあたっては、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に実施しております。この自己評価の結果を活用し、さらなる教育活動並びに学校運営等の質の向上に努めてまいりたいと考えています。

1. 対象期間：2024年（令和6年）4月1日 ～ 2025年（令和7年）3月31日

2. 実施方法

- (1) 実施時期：2025年5月
- (2) 実施回数：年1回
- (3) 実施体制：校長を中心に教職員で自己評価を行っております。
- (4) 評価結果の公表方法：当該報告書を本校ホームページに掲載して公表

3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の11項目について実施しております。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ・募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

評価項目の達成および取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
②	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
⑤	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 学校の教育理念等は、「学則」及び「学生必携」に明記している。高度な専門知識と豊かな人間性を持つ人材育成を目的として、カリキュラムや教育方法にも反映させている。専門分野の特性、育成人材像については、学校紹介パンフレットに示されている。
- ② 高度の専門性、国際感覚、社会人としての常識・マナーを備えた人材の育成を行うことをその特色としている。
- ③ 専門学校をめぐる状況を視野に入れつつ将来構想を検討した結果に基づき、令和7年度より校名変更を行い、学科編成についても改変を行うこととした。
- ④ 学校案内書、ホームページ、イベント等を通じて周知している。また、在校生には「学生必携」を利用してオリエンテーション等で周知を図っている。
- ⑤ 業界の動向には常に注意を払いながら、そのニーズに応えられるような学科の設置、カリキュラムの構築に取り組んできた。

(2) 学校運営

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
④	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
⑤	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ①② 理事会で承認された事業計画をもとに毎年運営方針を策定している。事業計画及び運営方針は学校法人の全職員を対象とした会議等の機会により周知している。
- ③ 学校運営に関する組織は整備されており、必要に応じて部門間で意見交換の上、適正に判断し業務を遂行している。
- ④ 規程の整備は随時実施しており、給与規程や出張旅費規程の見直し、定年年齢の引き上げ等を通じて、時代に即した職員の就労環境の向上を図っている。
- ⑤ 意思決定については学園の規程において定められている校務分掌、職務権限に従って行われ、有効的かつ効率的に運営されている。各部門ごとに校務分掌表を作成し、担当する業務を明確にしている。
- ⑥ 学校として法令や基準等で確認が必要な場合は、宮城県担当者に随時問い合わせ適切に対処している。また、グループ法人の顧問弁護士等に相談し、学校としての基本的なコンプライアンス体制は整備されている。
- ⑦ 各種学校行事の実施状況や各学科の教育活動については、SNSで情報公開を行っている。
- ⑧ Google ClassroomやGoogle Chat、Google Meetなどを活用し、職員間及び非常勤講師との連絡や打合せを滞りなく、また効率的に行うことができている。

(3)教育活動

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
②	教育理念、育成人財や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
⑥	関連分野における実践的な職業教育(産学連携におけるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
⑪	人材育成目標の達成に向け事業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
⑫	関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	③	2	1
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 教育理念を対外的に分かりやすく示し、各学科実施方針や編成に反映させている。
- ② 目標到達に必要な学習時間を十分に確保している。また、到達目標について日頃から学生たちに分かりやすく伝えている。到達目標については特に目標取得資格を明確に設定している。
- ③ 職員、講師と連携して改善を行い、体系的なカリキュラム編成に繋げている。
- ④ 職業意識を高めることを意識し、実践的な授業を実施している。
- ⑤ 関連分野の企業との連携や実習等を実施して、カリキュラム作成、見直し、検討に努めている。
- ⑥ 学科や分野を問わず、インターンシップを学生に勧めている。企業からの募集情報も増えてきている。

- ⑦ 学期末ごとに全科目の授業アンケートを実施している。結果は担当講師と共有し、問題解決に努めている。
- ⑧ 外部関係者から寄せられた意見、評価を学校運営に反映させるようにしている。
- ⑨ 判断基準は学生必携に明記しており、学年毎のオリエンテーションでも指導をしている。
- ⑩ 取得目標資格と授業内容とが関連づけられているか、講師と常に確認している。
- ⑪ 人材育成目標達成のため、企業や講師との連携をより細やかにしていく必要がある。
- ⑫ 学外の研修に、より積極的に参加したい。
- ⑬ 学外の研修に積極的に参加し、職員間での情報共有をしたい。
- ⑭ 2025年度から新たにハラスメントに関する研修を職員向けに実施をする。

(4)学修成果

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
②	資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
③	退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 就職率は100%となり、昨年度比較で向上した。
- ② 検定試験の結果を講師との情報共有をしている。さらに検定試験前に授業外での講座も実施し、取得率の向上に繋げられるよう取り組んでいる。
- ③ 個人面談やスクールカウンセラーの誘導をしながら、退学率の低減ができた。
- ④ 外部実習や研修を通し、卒業生、在校生の情報を把握するよう努めている。卒業生との連絡を密にすることを続けていきたい。
- ⑤ 各業界の卒業生の情報収集に努め、ホームページやSNSで紹介している。2024年度には、SNSで新たな学校アカウントを作成し、これまで以上に情報発信に力を入れている。また、在校生と卒業生との対話の機会を作っている。

(5) 学生支援

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
②	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
⑦	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
⑧	卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
⑩	高校・高等専修学校等の連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 学生個人と面談の中で、主訴が何かを把握することに努めている。また、進路指導に関わる講師とともに学生の動向や進路活動の進捗を共有し、適切な進路指導ができるような体制をとっている。
- ② 担任の個人面談で、生活面、学習面、進路面と総合的に相談ができる体制をとっている。また、月1回、スクールカウンセラーを配置して相談ができる場を設定している。今年度の利用予約状況から、2025年度には、火曜日、金曜日の月2回とし、学生が相談しやすくなる改善を取り入れる。
- ③ 引き続き、修学支援新制度や奨学金制度を継続し、経済的理由で進学を諦めさせない工夫を実施していく。
- ④ 定期健康診断を引き続き実施する。保健室の常設とスクールカウンセラーによる学生相談室開設で精神面の支援も行う。
- ⑤ 関連業界でのアルバイト、ボランティアなどの情報提供を行って支援している。具体的には、Google Classroomを利用したタイムリーな情報伝達と学生へ直接伝達できる担任が担当している基礎ゼミという授業の中で周知もしている。
- ⑥ 女子学生に対しては、学校近くに寮を設けている。また、業者と連携をして学生会館、アパート等を紹介している。
- ⑦ 毎日の出欠状況、成績について定期的に保護者への報告を行っている。
- ⑧ 特にハラスメントに関する相談が年々多くなっているように感じる。相談があれば、丁寧なヒアリング、関係機関へのリファーを行っている。
- ⑨ 社会人のニーズを踏まえて、カリキュラムや講師配置など教育環境を整備している。
- ⑩ 仕事体験や高校ガイダンスの参加により、職業教育の理解度を高めている。

(6)教育環境

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように設備されているか	④	3	2	1
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
③	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 前回の改善策に挙げていた、全館Wi-Fiの開通及び、3、5、6階の教室の机、イス等備品も大幅に新品に入れ替え、学習環境の改善に取り組んだ。
- ② 実習や研修、インターンシップを積極的に実施している。英語の語学研修に加え、2025年度は新たに韓国語を対象とする語学研修を実施する。
- ③ 避難訓練を今後も実施する。防災教育も引き続き行う。

(7)学生の受入れ・募集

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
③	学納金は妥当なものになっているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 毎月開催している来校型のイベントでは職員一同協力して本校の特徴、学科概要、カリキュラム等を伝え参加者に満足していただけるような機会にできるように心掛けている。また遠方の進学相談会に積極的に参加し、学校認知を上げる目的としても活動を行った。進学相談会では入学後のミスマッチが生じないように他校とも比較した上で進路を決めてもらうように説明している。
- ② 教育成果を伝える手段としては「学校紹介パンフレット」「本校ホームページ」「各種イベント」等を通じて伝えており、見やすさ、分かりやすさ、伝わりやすさを意識して制作及び伝達に取り組んでいる。パンフレットは2026年募集で新学科、新コースが入るため、入学検討者が見たい情報・読みたい順番に配慮して構成を再検討して制作している。HPやSNSでは在校生のリアルタイムの情報が発信できるよう心掛け、研修の様子など常に新鮮な情報提供ができるように取り組んだ。オープンキャンパスでは、よりリアルな情報が提供できるように学生スタッフを配置し、参加者との交流時間を設けている。今後とも教育成果を迅速に発信できるよう心掛けていきたい。
- ③ 健全な学校運営を基本とし、定期的に学費サポート制度の説明を行っている。

(8) 財務

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
③	財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
④	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 学園の財務基盤は安定している。継続して、中長期的な財務基盤の安定に努めていく。
- ② 予算と収支計画は各部門で編成を行い、年度末に評議員会に諮り、理事会で決定している。また、理事会での決定事項に従い適正に実行している。
- ③ 会計監査は法令に基づき監査法人及び監事により適正に行われている。
- ④ 私立学校法により閲覧に供することが義務付けられている事業報告書及び財務情報についてはホームページで公開している。

(9) 法令等の遵守

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされてるか	④	3	2	1
②	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	④	3	2	1
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
④	自己評価を公開しているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 設置基準を遵守し適正に運営を行っている。
- ② 個人情報に関しては「個人情報への取り組み」(個人情報保護方針)を定め、適正な保護の実現を行っている。
- ③ 自己評価委員会により自己評価を行い、その後学校関係者評価まで実施している。その際に問題点について検討している。
- ④ 自己評価の結果については「学校自己評価報告書」としてホームページによる公開を行っている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
③	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

■ 状況、課題、改善策について

- ① 2024年度には仙台市内の高校のアンケート調査の受け入れをした。これからも依頼や本校訪問などを積極的に受け入れたい。
- ② 学内、学外ともにボランティアを積極的に推奨している。
- ③ 受託の機会があれば積極的に実施したい。

(11) 国際交流

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
②	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているのか	④	3	2	1
③	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
④	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

■ 状況、課題、改善策について

- ① 留学センター（送り出し機関）との連携、対話を適宜行い、信頼関係の構築に努めており、多国籍クラスの運営ができています。国際情勢等の情報を担当間でも共有し、今後も、留学したい学生の受け入れについて、国を問わず行っていきたい。
- ② 留学希望者について、何を学びたいのか、面接で丁寧にヒアリングし、目的意識の確認を行っている。また、日々、学生の健康状態を確認し、健康管理にも気を配っている。休みが多い学生には、丁寧なヒアリングを行うとともに、必要に応じて医療機関などへリファーしている。
- ③ 担任制をとり、自立を促しつつ、日常生活において相談できる体制を整えている。学修の成果として資格の取得を推奨し、学生が進んで勉学に励み、効果的に学習がなされる工夫をしている。
- ④ ホームページやSNSで、学校の日常、学校で行っている活動について発信している。今後は、地域の小学校や中学校とも繋がりを持ち、何か協働する機会を設けていきたい。